



命を守る防災教育 ～自分の身は自分で守る～

子どもたちの心身の安全を脅かす危険は、地震や風水害等の自然災害、感染症、不審者、インターネット上の有害情報など様々ありますが、その対処として共通しているのは、子ども自身が「自分の身は自分で守る」という強い気持ちをもつことです。その気持ちがなければ、回りの大人がどんなに心配しても、子どもたちを守ることは難しいと思います。南海トラフ地震の発生が危惧される中、袋井西小学校では、特に大規模地震等の自然災害に備えて、子どもたちの危機意識を高めたり、自分で考えて避難する力を育んだりすることを目指して、以下のような防災教育に力を入れて取り組んでいます。

○地震、火災、洪水を想定した避難訓練

予告なし訓練を含め、授業中だけでなく休み時間など、様々な場面を想定した訓練を計画的に実施します。

○学園防災の日（西小防災の日）

昭和19年の東南海地震の発生日（12月7日）に合わせて実施します。本校で犠牲となった20名の児童に全校で黙祷を捧げ、「自分の身は自分で守る」という決意を新たにします。また、防災をテーマに総合的な学習に取り組む5年生が、地震を体験した地域の方を招いて当時の話を聞きます。

○防災ハンドブックの活用

地震、大雨、台風などの災害ごとに、事前の備えや避難の仕方などについて自分の考えを記入します。ハンドブックは常にランドセルに入れておきます。



洪水避難訓練（6月20日）

地域の方から校舎が倒壊した様子など被害の状況を教えてもらいました

原野谷川の決壊により洪水が発生した想定で、全児童が校舎3階へ避難しました



西小防災の日（昨年度）

本年度は、登下校時に大規模地震が発生した場合の避難行動や児童の保護者への引き渡し方法などについて、市の危機管理課や自治会とも連携して見直しを行う予定です。家庭でも「このとき地震が来たらどうする？」を子どもといっしょに考えてみるなど、子どもの防災意識を高める働きかけをお願いいたします。